

音楽科学習指導案

指導者 甫出 頼之

- 1 日 時 令和5年11月18日(土) 第1校時(10:05~10:55)
- 2 学年・組 中学校第1学年1組 計40名(男子20名, 女子20名)
- 3 場 所 中学校音楽室
- 4 題材名 日本やアジアの声による表現を鑑賞しよう
- 5 題材について

本題材は、我が国やアジア地域の「声の表現」を教材として、表現の共通性や固有性から多様性を理解し、その音楽が人々の生活とどのように関わっているかを考えて鑑賞することをねらいとする。今回は、我が国の声による表現として「天台声明」「八木節」「江差追分」、アジア地域の声の表現として「ケチャ」「ホーミー」「布農〈ブヌン〉族の合唱」を教材として取り上げる。これらは、それぞれが同じ「声の表現」であるが、共通点だけでなく相違点も多く、生徒たちが課題意識をもちやすい。声の音色、声の出し方や発音といった「声の音色の特徴」や、旋律の動き方、旋律の装飾、音階、形式、構成、言葉のリズムや抑揚、歌詞の内容などといった「旋律の特徴」に着目することで、それぞれの特徴を浮かび上がらせる。また、それらを文化や歴史、音楽以外の芸術との関わりなどと関わらせながら理解し、「生活や社会における音楽の意味や役割」について考えさせることで、音楽のよさや美しさをより深く味わって聴く力の育成を図る。

本学級は、学習に前向きに取り組む生徒が多い。2学期の鑑賞の授業で取り上げたシューベルトの「魔王」では、登場人物ごとの旋律の変化、歌とピアノ伴奏との関わり、強弱の変化と効果といった音楽的な特徴や歌手の声の音色の変化(歌い方の工夫)を聴き取り、曲想を味わった。今回は、様々な声による表現に触れることで、声に対する理解や興味がさらに深まることが期待できる。

指導にあたっては、効果的な協働学習が成立するように学習形態を適宜転換し、グループによる鑑賞活動とクラス全体での意見共有を行う。グループによる鑑賞活動では、タブレットとヘッドホン、イヤホン・スプリッターを使用してグループ内だけで鑑賞する。さらに、グループでまとめた意見をタブレットの画面共有の機能を使用し、クラス全体で共有する。生徒が音楽のよさや美しさ、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性などについて価値判断し、言葉で表現することができるようにしたい。

6 題材の目標

- (1) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。
- (2) 生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- (3) 生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習活動に主体的・協働的に取り組む。

7 指導計画(全2時間)

次	時	学習内容
1	1	「八木節」「江差追分」「ホーミー」を視聴し、表現の仕方や表現の特徴を取りまとめる。

2	2	「天台声明」「ケチャ」「布農〈ブヌン〉族の合唱」を視聴し、表現の仕方や表現の特徴を取りまとめる。(本時2/2)
---	---	---

8 本時の目標

「天台声明」「ケチャ」「布農〈ブヌン〉族の合唱」の表現の仕方や表現の特徴から生まれる音楽の多様性について理解しながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。【思考・判断・表現】

9 学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点 (◆評価)
1. 前時の振り返りとめあての確認。	○前回鑑賞した、「八木節」「江差追分」「ホーミー」の特徴について確認する。
日本とアジアの声による音楽の特徴をとらえ、音楽の意味や役割を考えて鑑賞しよう。	
2. 「天台声明」「ケチャ」「布農〈ブヌン〉族の合唱」の3曲が、どのような目的や場面で歌われているか予想しながら鑑賞する。 ・お祭りの音楽ではないか。 ・何かの儀式の音楽ではないか。 ・今までに聴いたことのない音楽で、よくわからなかった。	○鑑賞後、まず個人でワークシートに意見を書く時間をとり、その後、グループで意見を交流する。次に、クラス全体で意見を交流する。
3. 3曲の中から1曲を、グループごとに音楽的な特徴をまとめながら鑑賞する。 ・男声で歌われている。 ・短い掛け声のような言葉によって細かいリズムが刻まれている。 ・合唱のように、たくさんの人が歌っている。 ・長くのばされた声が、重ねられている。 ・掛け声で急に音が増えて強くなり、また急に音が少なくなり弱くなる。これが繰り返される。	○鑑賞の前に、生徒たちに音楽的な見方・考え方としてとして、音色(声の音色や響き)、リズム・速度(拍や拍子の現れ方)、テクスチュア(声の合わせ方)、強弱(強弱の変化と効果)、構成(音楽全体の構成)を示す。 ○教師がグループごとに鑑賞する曲を割り振り、割り振られた曲について、グループで音楽的な特徴をまとめさせる。 ○代表者のタブレットにある音源をヘッドホンとイヤホン・スプリッターを使用して、グループで鑑賞させる。 ○タブレットのアプリ(ロイロノート)のカードに音楽的な特徴をまとめさせる。 ○カードをプロジェクターで投影し、全体で共有する。
4. 曲の背景について紹介し、どのような目的や場面で歌われているか確認する。	○3つの音楽の共通点や相違点を理解する。 ○曲の背景と音楽的な特徴の関連について考え

	<p>させる。</p> <p>○最後にクラス一斉で鑑賞する。</p> <p>◆生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。【思考・判断・表現】</p>
--	---

10 授業の分析

(1) 主な成果

地理的に近い東アジア地域の音楽を鑑賞し、音楽的な特徴をまとめさせながら、これらの音楽の共通点や相違点を理解することができた。その際、タブレット端末とヘッドホン、イヤホン・スプリッターを使用し、タブレット端末のアプリ「ロイロノート」で配布した音声データをグループごとに鑑賞することによって、より対象の音楽に集中して鑑賞することができた。

(2) タブレット端末の効果的な使用

従来の一般的な鑑賞活動においては、同じ音楽を全員が一斉に聴く活動が主流であったが、タブレット端末とヘッドホンを用いることによって、生徒一人一人が個別に音楽を聴くことができる。このことによって、一人一人異なる楽曲を聴いたり、異なる部分を何度も繰り返し聴いたり、必要に応じてインターネット検索を行ったりするなど、個別の課題に応じた学習を進めることができる。今回は、3つの音楽をグループに一つずつ分担させて鑑賞させ、同時進行で違う音楽を聴き、音楽の特徴をまとめることができた。

他方、より多様な視点で音楽と関わるためには、前述のような個人的な鑑賞のみならず、生徒同士で気づきや感想等を共有することもまた重要である。そのような協働的に学び合う場を、より活性化するための手立てとして、「ロイロノート」の共有ノートの機能を活用した。

(3) 今後の課題

今回は、グループ別での音楽の鑑賞が中心であったが、クラス全体で音楽を鑑賞する場面の設定が少なかった。例えば、各班の気づきの発表の中で、クラス全体で音楽を聴いて確認することができれば、もっと対話を深め、対話を通して音楽科本来の魅力に迫ることができた。

また、鑑賞だけではなく、自分たちの生活と比較したり、実際に真似をして声を出してみたりといった、実感をもてるような体験活動につなげていくような指導ができればよかった。

さらに深く教材研究を行い、生徒の興味関心をさらに呼び起こすような教科指導が行えるようにしたい。